

日本海洋学会幹事会 2017 年 11 月 21 日

日本海洋学会 2017 年度第 4 回幹事会議事録

日時：2017 年 11 月 21 日（火）13：30～17：00

場所：パレスサイドビル マイナビルーム 9F-K

出席者：日比谷会長、神田副会長、
石坂、市川、伊藤、岡、北出、齊藤、東塚、安田、安中、山田、事務局（毎日学術フォーラム：小野）

議題

1. 議事録（案）承認（北出幹事）

第 3 回幹事会および秋季評議員会の議事録（案）について確認し、一部修正することで、承認された。

2. 審議事項

（1）入退会について（東塚幹事）

2017 年 8 月～9 月の退会者（6 名）と入会者（18 名）を承認した。また、2 名の逝去者があった。2017 年 9 月末の会員数は、1,634 名。

（2）シンポジウムの後援・協賛等について（東塚幹事）

後援・協賛等について 1 件の依頼があり、承認された。

（3）公募・推薦等の依頼について（東塚幹事）

公募・推薦について 1 件、シンポジウム・講演等について 2 件の依頼があり、学会メーリングリストにて配信した旨、報告があった。また、国立研究開発法人科学技術振興機構より、著者抄録使用料を 2018 年 10 月以降、段階的に引き下げる連絡があった件について特には反対しないこととなった。

（4）海の研究投稿規定の改訂について（市川編集委員長）

海の研究投稿規定の改訂について提案があり、一部を修正の上、メール審議することとなった。

（5）沿岸海洋研究会の春季シンポジウムについて（北出幹事）

2018 年 3 月 26 日に東京海洋大学品川キャンパスにおいて開催予定であることが報告された。

沿岸海洋研究会の春季シンポジウムの開催にあたって、他の研究会と同様に、会場使用申請は、日本海洋学会名で申し込むが、支払いは研究会にて対応していただくことが確認された。

（6）名誉会員推薦理由書執筆者について（東塚幹事）

名誉会員推薦理由書執筆者について提案があり、承認された。

3. 報告事項

（1）会長

本日午前中に、文部科学省 研究開発局 海洋地球課との情報交換会が初めて行われた。海洋地球課からは、実施中の事業や当面の課題についての説明があった。学会からは、応募予定の大型研究計画の内容について紹介した。

JpGU 代議員選挙の結果、海洋学会員から 10 名が選出されたこと、大気水圏科学セッションのセクションプレジデントとして蒲生俊敬会員が選出されたこと、12 月中旬より理事選挙が実施されることが報告された。来春の大会に関して、235 セッション（うち 56 が国際セッション）が提案されている。

(2) 副会長

秋季大会における就職支援企画に関して、参加企業からのアンケートを取った結果について報告があった。2018 年の JpGU 大会での就職支援企画の実施に関しても議論を行い、部屋を借りて実施するよりは、海洋学会のブースでパンフレットを置く、企業ブースへの案内程度にとどめることとなった。

(3) 庶務（東塚幹事）

2017 年 12 月～2018 年 1 月の予定について報告があった。

秋季大会のアンケートを実施した（昨日メ切）。63 名からの回答があり、結果に関する簡単な報告がなされた。正式な集計は改めて報告する予定である。

(4) 研究発表（山田幹事）

2018 年度～2021 年度の春季大会（JpGU 大会）の日程および会場と 2020 年度の秋季大会の会場の予定について報告された。

(5) 編集

1) JO（石坂編集委員長）

①JO の発行状況（Vol.72 (1)～Vol.73 (6)）、②JO 投稿・受理状況、③転載申請について報告があった。

2) 海の研究（市川幹事）

①2017 年度（3 月～11 月）の出版状況、②2017 年度残期（12 月～3 月）出版計画、③投稿論文状況、④その他（J-STAGE での公開再開について、「投稿の手引き」および「海の研究について」の改訂）について報告があった。

3) ニュースレター（安藤幹事（メールで事前連絡されたもの））

①JOS ニュースレター発行状況（vol.7(3)）、②JOS ニュースレター発行準備状況（vol.7(4)）、③その他今後の方針（他学会紹介記事として気象学会の天気担当編集委員等に声かけする、他分野に跨る講演内容の紹介記事（マイクロプラスチックや海洋酸性化等）の検討）について報告があった。

(6) 広報委員会（安中幹事）

秋季大会会期中に実施したイベント（海洋研究者の座談会 — 皆で一緒に考える女性研究者のキャリアパス —）およびナイトセッション（海洋学を活かせる進路について）の

内容について報告され、次回のニュースレターに掲載予定である旨、報告された。
JpGU 2018 の日本海洋学会ブースを確保した件について報告があった。

(7) 海洋環境委員会 (山田幹事)

青い海助成事業として、緊急対応型公募のリマインドを行ったことが報告された。

(8) 教育問題研究会 (伊藤幹事)

第 6 回 COSIA の開催報告およびサイエンスアゴラ 2017 の準備状況についての報告がなされた。

女子中高生夏の学校 2018 にむけて、参加申請情報を得るために、JpGU ダイバーシティ委員会に委員を出すか、男女共同参画学協会連絡会に加盟することについて提案があり、日本海洋学会として男女共同参画学協会連絡会に加盟することとなった (年会費 10,000 円、担当は安中幹事)。

「海のこと、なんでも相談室」の問い合わせ先リストの構築・整備を教育問題研究会へ依頼する提案がなされ、簡単なリストを教育委員会と広報委員会で協力しつつ作成を試みることとなった。

(9) 海洋生物学研究会 (齊藤幹事)

ウェブサイトを作成し、公開した。2018 年 3 月 24~25 日に東京海洋大学品川キャンパスでシンポジウムを開催予定。(プランクトン学会のシンポジウムは、本会の後、25 日午後に開催予定)。现阶段での会員数が 101 名であることが報告された

(10) 日本地球惑星科学連合 (東塚幹事)

2018 年の大会プログラムのコマ割り案がほぼ固まり、12 月 1 日に一般公開予定であることが報告された。

(11) 日本科学振興財団 (日比谷会長)

財団の主催する委員会において、船舶観測に関し、測器の供用化や練習船の活用について、報告書をまとめていることが報告された。

(12) 震災対応 (伊藤幹事)

秋季大会でシンポジウムを実施した旨の報告があった。

(13) 水産・海洋科学研究連絡協議会 (伊藤幹事)

10 月 31 日に日本学術会議主催のシンポジウムの開催報告があった。

名古屋議定書に基づく ABS (Access and Benefit Sharing) 手続きについての議論の報告があった。

日本学術会議第 24 期の食料科学委員会水産分科会の委員が決定したことについて報告があった。

(14) 若手支援 (神田副会長)

若手海外渡航支援について、今年度の応募が 1 件しかなかったことに関し、支援事業の在り方について少し考えた方が良いとの意見があった。

日本海洋学会幹事会 2017 年 11 月 21 日

(15) その他

・奨励論文賞について (岡幹事)

学生会員からの投稿論文数が少ないこと、2017 年刊行の対象論文が非常に少ないことが報告された。

・「一家に 1 枚」ポスター企画 WG 報告 (伊藤幹事)

「一家に 1 枚」ポスターの審査結果の所見に関して報告があった。

以上

次回幹事会

日時：1 月 (未定)

場所：未定